

長岡版広域道路ビジョン

－ 道路整備の方向性 －

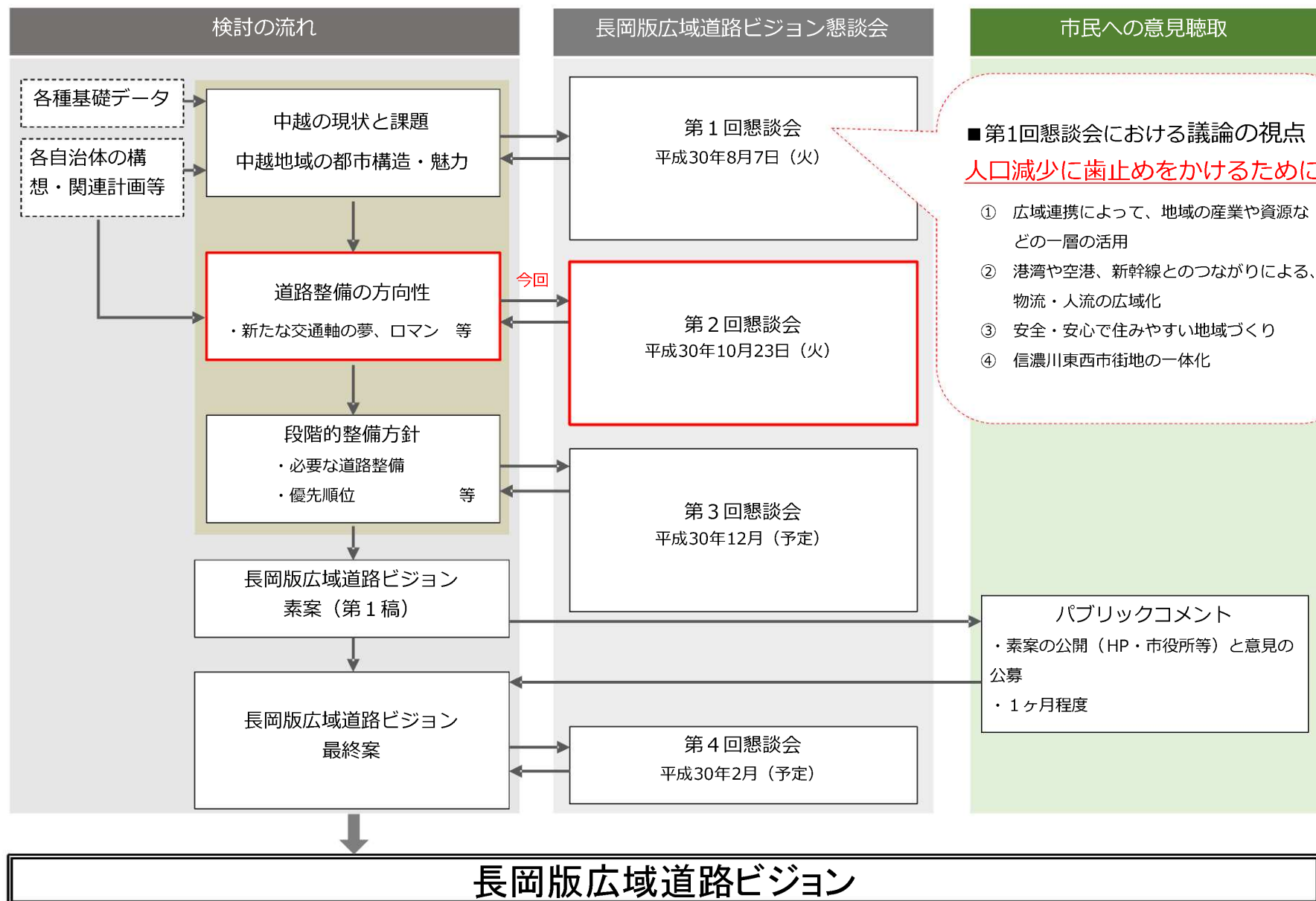
目 次

1. 長岡版広域道路ビジョン 策定までの流れ	1
2. 第1回懇談会の振り返り	2
3. 新たな交通軸の夢、ロマン	6



1 長岡版広域道路ビジョン 策定までの流れ

長岡版広域道路ビジョン懇談会で皆さまから議論いただきながら検討を進め、パブリックコメント（意見公募）による市民の意見を踏まえた最終案を作成し、第4回の懇談会でビジョン案が承認されたのち、「長岡版広域道路ビジョン」策定となる。



①広域連携による、地域の産業や資源などの一層の活用

A. 観光周遊のネットワークづくり

- 会津、日光、那須につながる道路
- 日光や海につながるロマンを感じられる道路
- 観光客が動きやすい道路ネットワーク
- 大地の芸術祭の作品を巡る道路ネットワーク
- 雪に不慣れな観光客が安心して運転できる道路

B. 中越地域が連携した観光施策

- 広域観光ルートの形成
- 長岡、小千谷、柏崎、十日町、魚沼が連携した観光施策の展開
- 中国圏、東南アジアをターゲットとした中部・北陸の「昇龍道」が参考になる

C. 外国人観光客受け入れの充実

- インバウンドは、思ってもみないところで人気が出る
- 食べ物に制限のあるムスリムに着目
- 農業を活かしたアグリツーリズム（農家体験、棚田、錦鯉）
- 雪に不慣れな外国人も安心して運転できる道路

D. 産業・物流を活性化する道路ネットワークづくり

- 郊外の循環型農業と都心とを結ぶ道路ネットワーク
- 広域的な道路の空白地におけるネットワークづくり
- 大雪でも通行止めにならず、安全・安心、快適に通行できる道路
- 米粉などのアレルギー対応食品を、関東方面などへ供給する拠点となる

E. 多様な世代が活躍する地域

- 若者がロマンを感じるような仕掛け
- 「地元の良さ」を小さいころから知る教育
- 「働く場」があることのPR
- 冬期の季節雇用の人と農業の連携で何かできないか
- 高齢者も元気な人が多い

F. 歴史的な地域のつながりの再認識

- 長岡藩主や河合継之助が使った八十里越えルートで会津と魅力的につながる
- とちお謙信公祭の鉄砲隊が会津に教えを乞うたというつながりがある

G. 中越地域の魅力の発信

- 米百俵の文化
- 地元も気づかない「地域の魅力」がある
- SNSによる発信やファンクラブ立上げなど地域の魅力のPR方法や活用方法の工夫
- 中越地域に来なければ食べられない（経験できない）ことの打ち出し

②港湾や空港、新幹線とのつながりによる、物流・人流の広域化

A. 広域な観光ルート

- 会津、日光、那須などにつながる道路があると夢が広がる
- 広域観光ルートのようなビジョンが必要
- 長岡を中心に、柏崎、小千谷、魚沼、十日町までネットワークを広げ、連携した観光施策が重要

B. 来訪者のスムーズな移動ルート

- 地域住民をはじめ観光客にも動きやすい道路ネットワークが必要
- いろいろな体験をしに来た観光客がフットワーク軽く移動できる道路ネットワークが必要

C. 鉄道を活用した観光

- 只見線が再開し、観光面で期待できる
- 東京から新幹線で長岡に訪れた人が、東京から案外近いと言っていた

D. インバウンドを見据えたネットワークづくり

- 中部・北陸の周遊ルート「昇龍道」のように、広域的な周遊ルートで、さらにターゲットに喜ばれるネーミングも重要

E. 太平洋側のバックアップとしての役割を担う

- 首都圏・中京・関西圏の大規模地震を想定すると、日本海側の交通の要衝である中越地域のバックアップの役割は大きい

F. 循環型農業生産物等の流通

- 循環型農業を行う郊外と、都市部との、往来しやすい道路ネットワークが必要

③安全・安心で住みやすい地域づくり

A. 大雪に強い道路ネットワーク

- 大雪でも通行止めにならず、安全・安心、快適に通行できる道路が必要
- 雪に不慣れな観光客、外国人でも安心して運転できる道路が必要
- 雪国の運転は怖いというイメージを払拭する雪に強い道路整備

B. 大規模災害時の道路ネットワーク

- 広域道路の空白地をつなぐ道路ネットワークは、災害対応の面でも必要
- 首都圏・中京・関西圏の大規模地震時のバックアップの役割を担うために、もう少し細やかな道路ネットワークも必要
- 災害時に燃料供給を考えると、迂回路の強化が必要

C. 柏崎刈羽原発の有事を想定した備え

- 雪で通行止めにならない、通年通れる避難道路が必要
- 国道8号、17号に加えて、複数の避難路が確保されることが必要

D. 広域的な救急医療の充実

- 医療の面で、会津方面とつながる道路があると良い
- 広域道路の空白地（例：磐越道と日沿道間、磐越道と関越道間、十日町から長岡、小千谷から柏崎など）をつなぐ道路ネットワークは、救急医療の面でも必要

E. 福祉関連活動の充実

- 新潟や上越と比較して、他県とのつながりが弱い中越はNPOが非常に少ない
- 福祉施設を充実させ、高齢者の暮らしやすいまちにし、そこで働く若者を増やすといった考えもある

F. 定住人口増加のために

- 首都圏へ、若者が流出することに歯止めをかけなければならない
- 若者がロマンを感じるような仕掛け
- 定住人口増加にはシティセールスも必要
- 「地元の良さ」に関する教育
- 「働く場」があることのPR
- 外国人定住者も増やしていけると良い
- 在宅で仕事をする環境整備

G. 子育て・就学環境が良い

- 来訪者から「子育て環境が良い（食べものおいしい、雪がある、海、東京に近い）」という意見がある
- 子育ての駅「てくてく」「ぐんぐん」ができて子育て環境が良くなった
- 大学が充実している

④ 信濃川東西市街地の一体化

A. 雪に強い道路ネットワーク

- 雪に強く、安全・安心・快適に通行できる道路が必要
- 広域のみならず、もう少し細やかなネットワークも必要
- 雪に不慣れな観光客、外国人でも安心して運転できる道路が必要
- 地域住民、観光客が動きやすい道路ネットワークが必要

B. 災害対応、救急医療に強いネットワーク

- 道路ネットワークを繋げることは、災害対応、救急医療などの面でも効果がある
- 関東などの大規模災害時、関東に近く、交通の要衝である中越地域のバックアップ機能の役割は大きい





(1) 【会津地方へつながる連携軸】

1. 会津との歴史・文化交流
 - ・戊辰戦争以来150年の節目を迎え、中世以降の長い交流の歴史を踏まえた、会津地域との更なる歴史・文化交流が可能となる。
2. 若者の交流促進
 - ・両地域の特色ある学術機関が連携の輪を広げ、新しい技術が生まれる。また、若者が相互の交流により学んだ知識を活かし、新しい文化やNPO活動の創出にも期待。
3. 観光周遊促進
 - ・新たな周遊ルートが形成され、会津、日光、那須をはじめ、今まで遠かった観光資源豊富な北関東が身近に。さまざまな観光資源、食も堪能できるの観光ルートで観光促進、インバウンドキャッチにも期待できる。
4. 災害時や積雪に強い道路
 - ・原発事故時の避難路を含めて、通年的に災害時のリダンダンシー機能が確保され、更に会津経由で関東の大規模地震時等のバックアップが可能になる。

1. 会津との歴史・文化交流



2. 若者の交流促進



若者の交流促進
(会津ジュニア大使が長岡市の中学校を訪問し、会津の魅力をPR)

3. 觀光周遊促進



4. 災害時や積雪に強い道路



イメージ

除雪の自動運転で常に快適な雪道運転



除雪の自動運転に対応できる線形の良い道路

(2) 【信濃川左岸の南北軸】～中越の魅力・宝を全国、世界へ～

1. 観光周遊促進

- ・様々な特色ある観光資源・宝を結ぶことで、積極的な観光施策が展開される。国内観光客はもとより、新潟空港からのインバウンド受け入れにも期待。
- ・佐渡と寺泊の連携強化、十日町から長野に向かうルート等、国内客のみならず、インバウンドにも分かり易い広域観光ルートが形成される。

2. 海外との交易ルートの強化

- ・信濃川左岸側に多いインターチェンジが一般道路と南北に結ばれ、中越地域を中心に新潟県を縦断するルートの強化により新潟方面へのアクセス性が向上。新潟港、新潟空港を活用した物流の活性化も期待される。

3. 地域産業の振興

- ・インターチェンジ周辺に産業団地が開発され、地域の未来を牽引する先端産業の連携、流通を促進することができる。働く場、雇用の創出も図られ、圏域全体ににぎわいが創出

4. 災害時の救援や避難路の確保

- ・原発事故時の避難路を含めて、信濃川右岸の国道8号、17号と対になるリダンダンシーの役割を担う。
- ・長野から中部地域に繋がる新たな広域ルートが形成され、大規模地震等の有事の際に広域的な救援が可能になる。

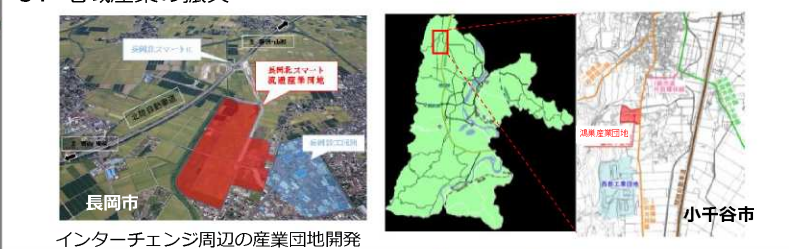
1. 観光周遊促進



2. 海外との交易ルートの強化



3. 地域産業の振興



4. 災害時の救援や避難路の確保



(3) 【中越地域の一体性を強化する東西軸】 ～越後三山から日本海までをつなぐ広域ルート～

1. 豊かな生活と都市部の連携強化
 - ・海や山などの豊かな自然と都市部の往来がスムーズになり、日本らしい四季のある生活を体感できる。
 - ・農山村部と都市部のアクセスが強化され、農業を営みながら都市の便利性を享受でき、都市部の住民ものどかな農村風景をいつでも楽しむことができる。
2. 観光周遊促進
 - ・地域固有の農風景や錦鯉等を活用したアグリツーリズム、ウィンタースポーツや豪雪地帯の生活など、年間を通してユニークな観光施策が展開される。
 - ・内陸部から、富山・金沢等北陸方面への新たな観光ルートを開拓することができる。
3. 地域産業の振興
 - ・PAを利用した新たなスマートICの設置や、関越北陸自動車道間のネットワーク強化により、先端産業や農業法人の連携、製品の流通を促進することができる。
 - ・中山間地へのアクセス性が向上し、季節性を活かした柔軟な視点で若者の雇用創出も可能に。
4. 災害時や積雪に強い道路
 - ・雪でも通行止めにならず、安心して通行できる道路ネットワークの形成や、地震・洪水・原発事故等災害時のリダンダンシーの強化を図ることができる。
 - ・日本海側経由のルートを活用して、太平洋側の大規模地震等の有事の際に、近畿・中部等への広域的な支援が可能となる。

1. 豊かな自然と都市部の連携強化



3. 地域産業の振興



柔軟な視点で若者の雇用を創出し
地域の特産品を未来に継承



2. 観光周遊促進



4. 災害や積雪に強い道路



3 必要な交通軸について

(4) 【東西市街地の一体化】 ～中越圏域全体の発展のために～

1. 都市機能の連携強化

- ・中越地域の交通の核となる信濃川橋りょうにより、信濃川で分断された東西市街地が一体化し、病院や大学、新幹線駅といった都市機能の連携強化が図られ、長岡市のみならず中越圏域全体の発展につながる。
 - ・信濃川兩岸の南北軸との連携により、平常時の円滑な交通や災害時のリダンダンシーの強化が図られる。
- ##### 2. 豊かな市民生活
- ・信濃川によって分断されている市街地が一体化することで、市役所や大型商業施設、子育て施設、国営公園や都市公園などが利用しやすくなり、定住人口増加につながる。
- ##### 3. 橋りょう部の円滑な交通
- ・橋りょう部の交通容量拡大や老朽化対策等により橋を強化・存続させることで、積雪時でも安全・円滑な移動や、通勤・通学が出来る。救急医療の面でも効果あり。
 - ・新幹線で長岡駅を降り中越地域を訪れる人の出発点の交通が円滑になることで、新潟空港や首都圏からの旅行客が増加し、中越地域全体の活性化につながる。

1. 都市機能の連携強化



2. 豊かな市民生活



3. 橋りょう部の円滑な交通

